

最後の過越の食事と逮捕

□前のハイライトからのつながり 日付はユダヤ暦ニサンの月（紀元 30 年 4 月 2 日～7 日）

| 10 日（日） | 11 日（月） | 12 日（火） | 13 日（水） | 14 日（木） | 15 日（金） |
|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| | | | | | † |

エルサレム入城

1. ニサンの月 10 日、週の初めの日（日曜日）、イエスは子ろばに乗って。
2. 火曜日、**オリーブ山での終末預言** を弟子たちに語った後、死と復活を予告（4 回目）
3. 水曜日の夜の出来事は、二つ
 - (1) オリーブ山からベタニヤに戻り、**シモンの家で夕食**。マルタが給仕し、ラザロも食卓に。マリアによる香油注ぎ、これがイエスの埋葬準備となる。
 - (2) 香油注ぎを浪費だと反対したユダは、イエスから叱責を受ける。夕食の席を抜けてエルサレムの祭司長たちのもとへ。銀貨 30 枚でイエスを引き渡すことを約束した
4. 水曜日の夜明けから日没まで、そして木曜日の夜についての記事は、ない。
5. 木曜日の夜明け、14 日は**過越の食事を準備**する日
 - (1) 羊の肉以外の食材を用意する。
 - (2) 過越の小羊を神殿でささげ、肉を持って帰る。14 日の午後 3 時から 6 時にかけて。
6. 弟子たちが過越の食事の準備をした。場所は、あらかじめイエスが手配していた。
7. 日没後は金曜日 15 日である。イエスと弟子たちは **過越の食事** の席についた。
 - (1) 過越の食事では、伝統的なユダヤの手順に沿った。
 - (2) 誰かが裏切るという予告を 3 回。ユダが席を抜けたあと、第三の杯（贖いの杯）のときに、新しい契約の宣言。
8. 過越の食事の後、その場所（二階部屋）で、イエスが弟子たちに語った（ヨハネ 14 章）
9. 二階部屋から出発し、エルサレムの町を出て、ゲッセマネの園に向かった。その道すがら、歩きながら「まことのぶどうの木とその枝」のたとえ話など（15・16 章）
10. ゲッセマネの園に近づいた辺りで、イエスが大祭司としての祈りをした（17 章）
イエスは、歩みを止めて立ったまま、天に目を向けて、父なる神に祈った。
11. **金曜日の夜（10 時から 11 時頃と推定）、ゲッセマネの園で苦悶の祈り**
12. 祈りを終えたあと、イエスは**逮捕**された

□アウトライン

A) 最後の過越の食事

B) ゲッセマネの園での苦悶、そして逮捕

A) 最後の過越の食事

1. 木曜日の夜明け、14 日は過越の食事を準備する日

(1) 羊の肉以外の食材を用意する。種なしパン（マツァ）、苦菜（マロール）、野菜（カルパス）、くるみとリンゴを混ぜたもの（ハロセット）、ぶどう酒など。

(2) 過越の小羊を神殿でささげ、肉を持って帰る。14 日の午後 3 時から 6 時にかけて。

① 小羊を神殿域でほふる。血を鉢で受け、その鉢をレビ人に渡す。

1. レビ人たちが祭壇の土台まで長い列を 3 つ作り、手渡しでその血を運ぶ。

2. 鉢の血を祭壇の土台の部分に注ぐ。

② ほふった小羊をさばいて、祭壇で焼かれる部分をレビ人に渡し、過越の食事の食材となる部分を家に持って帰る。→ 小羊のロースト

2. 弟子たちが過越の食事の準備をした。場所は、あらかじめイエスが手配していた。

マタ 26 : 17~19、マコ 14 : 12~16、ルカ 22 : 7~13

3. 過越の食事では、伝統的なユダヤの手順に沿った。【 】内の二つの杯は記事なし

(1) 開始・食前のことば マタ 26 : 20、マコ 14 : 17、ルカ 22 : 14~16

(2) 第一の杯（感謝の杯）・【第二の杯（裁きの杯）】 ルカ 22 : 17~18

(3) イエスが弟子たちの足を洗った（清めの教え）。裏切りの予告① ヨハ 13 : 1~20

(4) カルパス（野菜）、ユダの裏切りの予告②

(5) マツァ（種なしパン）3 枚組の中から 2 枚目を取り出して割る

(6) ハロセット（くるみとリンゴを混ぜたもの）、裏切りの予告③

(7) ユダが席から抜ける ヨハ 13 : 30

(8) 第三の杯（贖いの杯） このとき「新しい契約」の宣言

(9) 偉大さに関する教え ルカ 22 : 24~30

「ヨハ 13 : 31~38

(10) ペテロの否認に関する予告 マタ 26 : 31~35、マコ 14 : 27~31、ルカ 22 : 31~38

(11) ハレル（賛美）【第四の杯（賛美の杯）】 マタ 26 : 30、マコ 14 : 26

食
事

(参考資料 最後の過越の食事についての記事、聖書箇所)

| 番号 | マタイ | マルコ | ルカ | ヨハネ |
|-----|------------|------------|------------|------------|
| (4) | 26 : 21~25 | 14 : 18~21 | 22 : 21~23 | |
| (5) | 26 : 26 | 14 : 22 | 22 : 19 | |
| (6) | | | | 13 : 21~29 |
| (8) | 26 : 27~29 | 1 : 23~25 | 22 : 20 | |

B) ゲッセマネの園での苦悶、そして逮捕

マタ 26 : 36~56、マコ 14 : 32~52、ルカ 22 : 39~53、ヨハ 18 : 1~11

1. ゲッセマネの園での祈り

(1) ゲッセマネの園に到着

① そこはイエスが弟子たちとたびたび集まっていた場所であった

ルカ 22 : 39~40a それからイエスは出て行き、いつものようにオリーブ山に行かれた。弟子たちもイエスに従った。いつもの場所に来ると、

ヨハ 18 : 1~2 これらのことを話してから、イエスは弟子たちとともに、キデロンの谷の向こうに出て行かれた。そこには園があり、イエスと弟子たちは中に入られた。一方、イエスを裏切ろうとしていたユダもその場所を知っていた。イエスが弟子たちと、たびたびそこに集まっておられたからである。

② 11 人のうち 8 人の弟子を出入り口の近くで待機させた。

マタ 26 : 36 それから、イエスは弟子たちと一緒にゲッセマネという場所に来て、彼らに「わたしがあそこに行って祈っている間、ここに座っていなさい。」と言われた。

- ③ 3 人の弟子を連れて奥に進んだ。そこで急にイエスが悲しみもだえ始めた。

マタ 26 : 37 そして、ペテロとゼバダイの子二人（ヤコブとヨハネ）を一緒に連れて行かれたが、イエスは悲しみもだえ始められた。

- 始められた・・・このとき、イエスは何かを知った。
- もだえ・・・イエスを恐れさせることがあって、それによってショックを受け、強いストレスに押しつぶされそうになった。

マコ 14 : 33 そして、ペテロ、ヤコブ、ヨハネと一緒に連れて行かれた。イエスは深く悩み、もだえ始め、

- 深く悩み（恐れ）・・・「大変驚き」という意味も。イエスがそれまで知らなかったことが知らされ、それにイエスが大変驚いた。その結果、イエスはもだえ始めた。すなわち、とても大きなショックを受けて、強いストレスに押しつぶされそうになった。

- ④ 3 人の弟子をその場でとどまらせ、目を覚ましているように命じた。

マタ 26 : 38 そのとき、イエスは彼らに言われた。「わたしは悲しみのあまり死ぬほどです。ここにいて、わたしと一緒に目を覚ましていなさい。」

- 悲しみのあまり死ぬほどです・・・イエスの悲しみ、恐れ、ショックはあまりに強くて、「死ぬほど」である。感情的にきついでだけでなく、それが肉体にまで波及し、体のあちらこちらを破壊してしまうほどであった。

(2) 一度目の祈り

- ① イエスは 3 人の弟子たちの場所からさらに山を登り、祈り始めた。

（最初は「ひざまずいて」＝膝を地面につけて）

ルカ 22 : 41 そしてご自分は弟子たちから離れて、石を投げて届くほどのところに行き、ひざまずいて祈られた。「父よ、みこころなら、この杯をわたしから取り去ってください。しかし、わたしの願いではなく、みこころがなりますように。」

(次は「ひれ伏して」=膝と手を地面につき、額を地面につけて)

マタ 26:39 それからイエスは少し進んで行って、ひれ伏して祈られた。「わが父よ、できることなら、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしが望むようにはではなく、あなたが望まれるままに、なさってください。」

(マルコでは明確に「地面にひれ伏して」、完全にうつ伏せ状態)

マコ 14:35~36 それからイエスは少し進んで行って、地面にひれ伏し、できることなら、この時が自分から過ぎ去るようにと祈られた。そして、こう言われた。「アバ、父よ、あなたは何でもおできになります。どうか、この杯をわたしから取り去ってください。しかし、わたしの望むことではなく、あなたがお望みになることが行われますように。」

- ② 天使が現れて、イエスを力づけた。イエスは苦しみもがき、いよいよ切に祈られた。天使から神のみこころを伝えられて、それを明確に受け取ったからである。汗が血のしずくのように地に落ちた。

ルカ 22:43~44 すると、御使いが天から現れて、イエスを力づけた。イエスは苦しみもだえて、いよいよ切に祈られた。汗が血のしずくのように地に落ちた。

- ③ 1 時間後、3 人の弟子たちの所に戻り、眠っている弟子たちを起こした。

マタ 26:40~41 それから、イエスは弟子たちのところに戻って来て、彼らが眠っているのを見、ペテロに言われた。「あなたがたはこのように、一時間でも、わたしとともに目を覚ましていられなかったのですか。誘惑に陥らないように、目を覚まして祈っていなさい。霊は燃えていても肉は弱いのです。」

(3) 二度目の祈り (マタ 26 : 42~43)

マタ 26 : 42 イエスは再び二度目に離れて行って、「わが父よ。わたしが飲まなければこの杯が過ぎ去らないのであれば、あなたのみこころがなりますように」と祈られた。

マタ 26 : 43 イエスが再び戻ってご覧になると、弟子たちは眠っていた。まぶたが重くなっていたのである。

マコ 14 : 40b 彼らは、イエスに何と言ってよいか、分からなかった。

(4) 三度目の祈り (マタ 26 : 44~46)

マタ 26 : 44 イエスは、彼らを残して再び離れて行き、もう一度同じことばで三度目の祈りをされた。

マタ 26 : 45~46 それから、イエスは弟子たちのところに来て言われた。「まだ眠って休んでいるのですか。見なさい。時が来ました。人の子は罪人たちの手に渡されます。立ちなさい。さあ、行こう。見なさい。わたしを裏切る者が近くに来ています。」

(5) イエスが飲まなければならなかった「杯」とは何か

- ① イエスは十字架にかかって肉体的に死ぬために来た。そのことは公生涯に入る前から知っておられ、ためらいは一切なかった（イザヤ 50 : 5）。そしてゲッセマネに来るまでにすでに 4 回、弟子たちにご自身の死と復活を予告してきた。よって、杯は、「十字架にかかって死ぬこと」ではない
- ② 旧約聖書では、杯は、罪に対する神の怒りを象徴する。それを飲まねばならないのは、神を信じない者たち、すなわち霊的に死んでいる者たちである。イエスがそれを飲まねばならないとしたら、イエスも霊的に死んだ状態になってのこと。よって、十字架の上で霊的に死ぬこと、すなわち、父なる神との分離を経験しなければならない。イエスは、そのことをゲッセマネの園に来て初めて知らされたと推測される。メシアの肉体的死は預言されていたが、霊的な死については旧約預言がなかったからである。
- ③ イエスは十字架において、この杯を飲んだ。イエスが十字架にかかった 6 時間のうち、後半の 3 時間においてイエスは霊的死を経験した。そして肉体の死の直前に、霊的再生も経験した。これにより、イエスは、罪人の立場を経験した完ぺきな大祭司となった。

(6) 天使が伝えた神のメッセージとは、何か・・・旧約のメシア預言から推測できる（メシアが落胆する）

イザヤ 49 : 3~4 そして（主は）、私に言われた。「あなたはわたしのしもべ、イスラエルよ、わたしはあなたのうちに、わたしの栄光を現す。」しかし、私は言った。「私は無駄な骨折りをして、いたずらに空しく自分の力を使い果たした。それでも、私の正しい訴えは主とともにあり、私の報いは私の神とともにある。」

● イスラエル・・・ここでは、メシアの呼称のひとつ

（落胆したメシアに主が励ましのメッセージを送る）

イザヤ 49 : 5~6 今、主は言われる。ヤコブをご自分のもとに帰らせ、イスラエルをご自分のもとに集めるために、母の胎内で私を ご自分のしもべとして形造った方が言われる。私は主の御目に重んじられ、私の神は私の力となられた。主は言われる。「あなたがわたしのしもべであるのは、ヤコブの諸部族を立たせ、イスラエルのうちの残されている物たちを帰らせるという、小さなことのためだけではない。わたしはあなたを国々の光とし、地の果てにまでわたしの救いをもたらす者とする。」

2. イエス逮捕 マタ 26 : 47~56、マコ 14 : 43~52、ルカ 22 : 47~53、ヨハ 18 : 2~11

(1) イエスを逮捕するために来た人々 (ヨハ 18 : 3)

ヨハ 18 : 3 それでユダは、一隊の兵士と、祭司長たちやパリサイ人たちから送られた下役たちを連れ、明かりとたいまつと武器を持って、そこにやって来た。

- 一隊の兵士・・・この一隊は、ローマ軍団の中の千人隊を指す。指揮官は千人隊長 (18 : 12)。よって、兵士の数は 600 人。

逮捕では、3 つの違反行為があった。(逮捕後のユダヤの裁判では 19 の違反行為)

- ① 銀貨 30 枚の見返りがからんだ逮捕は、律法違反 (出 23 : 8)
- ② 日没後に刑事事件を扱うのは、ユダヤ法に違反
- ③ 裁判官やサンヘドリンのメンバーが、逮捕に関わるのは、ユダヤ法に違反

(2) ユダが一人でイエスに近づき、イエスに口づけをした (マタ 26 : 48~50)。これを合図に兵士や役人たちが近づいてきた。イエスの対応は、(ヨハ 18 : 4~8)

ヨハ 18 : 4~6 イエスはご自分に起ころうとしていることをすべて知っておられたので、進み出て、「だれを捜しているのか」と彼らに言われた。彼らは「ナザレ人イエスを」と答えた。イエスは彼らに「わたしがそれだ」と言われた。イエスを裏切ろうとしていたユダも一緒に立っていた。イエスが彼らに「わたしがそれだ」と言われたとき、彼らは後ずさりし、地に倒れた。

18 : 7~8 イエスがもう一度、「だれを捜しているのか」と問われると、彼らは「ナザレ人イエスを」と言った。イエスは答えられた。「わたしがそれだ、と言ったではないか。わたしを捜しているのなら、この人たちを去らせなさい。」

(3) ペテロの攻撃とイエスによる制止 (ヨハ 18 : 10~11)

- ① 大祭司のしもべマルコス・・・大祭司の代理として来ている。大祭司自身は過越の祭りの期間中、極力、汚れに触れることを避ける。
- ② ペテロは、剣を抜いてマルコスに切りかかり、彼の右の耳を切り落とした。
- ③ イエスはペテロを制止し、そして、マルコスの耳にさわって彼を癒やされた (ルカ 22 : 51)

(4) イエスは捕らえられ、縛られた (ヨハ 18 : 12)